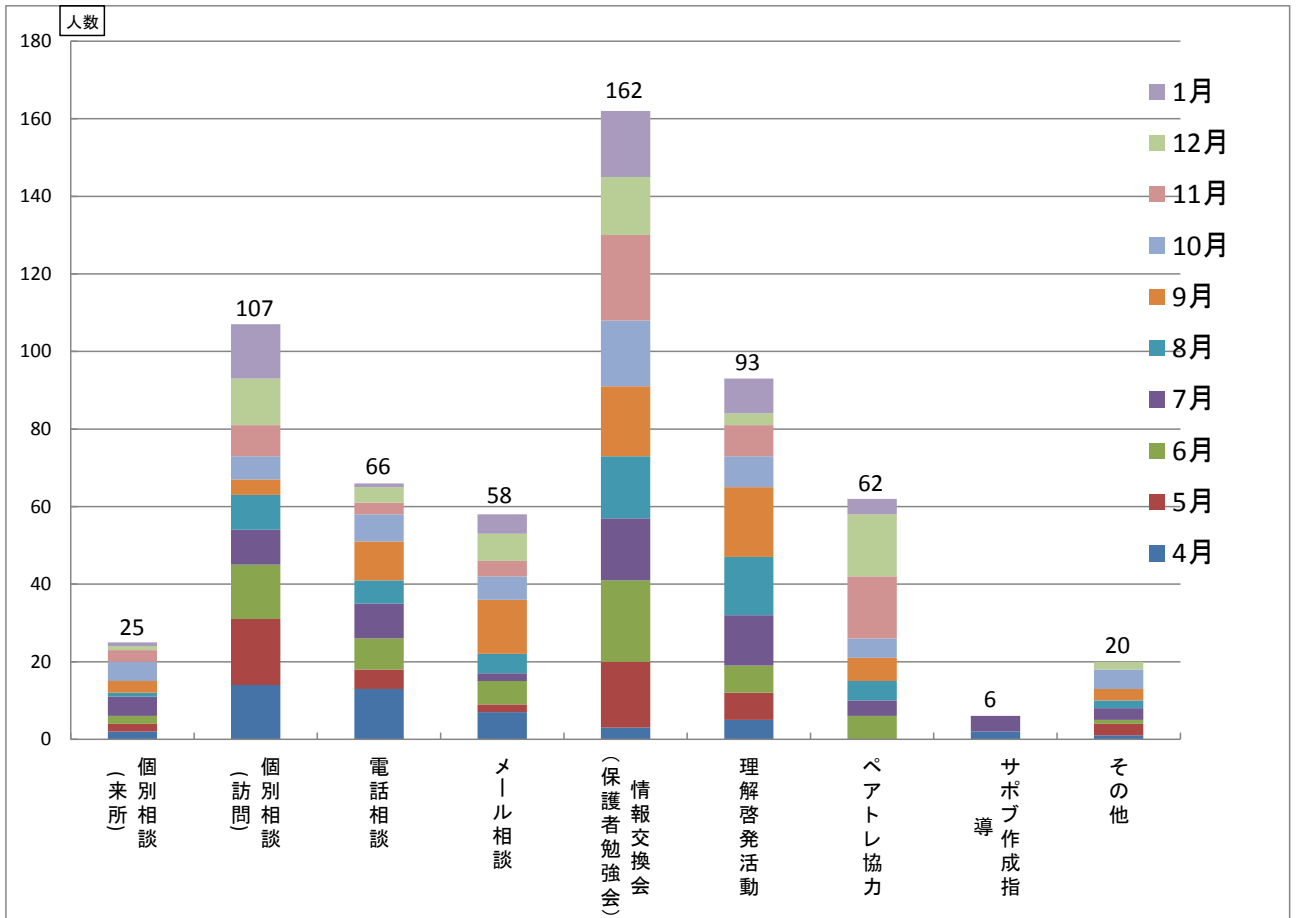


メンター通信 NO.8

平成 26 年 3 月 27 日
ペアレントメンター鳥取

《H25.4 月～H26.1 月までの活動報告》



＜圏域別活動報告＞

	延人数	来所	訪問	電話	メール	情報交換会	理解・啓発	ペアトレ	サポブ	その他
東部	289	25	22	36	27	75	63	30	6	5
中部	195	0	55	22	5	82	24	0	0	7
西部	115	0	30	8	26	5	6	32	0	8
合計	599	25	107	66	58	162	93	62	6	20

平成 25 年度最後のメンター通信です。

活動報告は、ご報告をいただいた数字の積み上げですので、毎月の皆さんの活動とご報告に感謝しております。11 月から医療機関での相談にメンターがかかわる事業が試行的に始まりました。その関係で、西部地区での訪問件数に大きな伸びがあります。また、この相談をきっかけに、専門機関からの依頼で、メンターをマッチングするケースも増えています。

12 月末に、西部地区には新たに 10 名のメンターが誕生し、合計 21 名が登録されています。26 年度からの本格的な活動に期待しているところです。



平成 26 年 2 月 15(土)・16 日(日) 名古屋市内でペアレントメンター応用研修が実施され、鳥取県から二人のメンターが参加しました。

1 日目の講演で吉川先生は、「診断基準の移り変わり」をテーマに現在翻訳中とされるDSM5について「試訳」を交えて説明してくださいました。あくまで途中経過の動向のお話で、結論はまだ先のことようです。なお、診断基準とのつきあい方というところで、「とらわれすぎる必要はない」と言われ、メンターはとらわれなくてよいと締めくくられました。わたしはとらわれ過ぎていたことを気付かされました。

1 日目の後半、井上先生の講演は、「性への対応」ということで大切なんだけど、どうしましょ～というテーマを実にサラッとご説明いただきました。「性」というと思春期以降のテーマと思われがちですが、「体の清潔」など幼児期からの積み上げの重要性を改めて認識しました。

研修後は名古屋駅近くの「名古屋コーチン」のお店で交流会。吉川先生に診断のことなどお聞きしつつ、鶏肉とビールの楽しいひと時を過ごしました。

2 日目の安達先生のご講演では、就学前の相談について大きく分けて3つのお話がありましたが、インクルーシブ教育への転換ということで、就学先決定の手続きの流れが変わっているようです。また「共依存」について、メンター側の落とし穴として

- 1、「相談を受けることのできる自分」に“自分が存在している価値”を強く感じてしまう。
- 2、「相談者にアドバイスをしている自分」が理想の自分に思えてくる。
- 3、相談者に頼られることに気分の良さを感じる。
- 4、知らず知らずのうちに、相談者が自分を頼るように相談を進めてしまう。
- 5、自分の伝えたことに応じない相談者に対して違和感を感じたり、否定的な感情を抱く。
- 6、そのような相談者に対して怒りを覚えたりする。

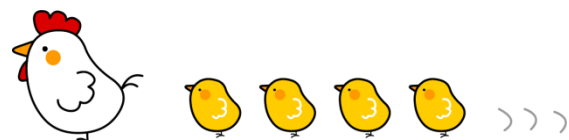
の6項目をあげられました。

「誰もが共依存に陥る可能性を持っている。自分の共依存に気がいたら自分を休ませて、本来の自分を回復させてあげて下さい。」とのことでした。

午後はインシデントプロセス法で事例に対する自分のやり方を付箋に書いてから順番に発表する演習でした。私のグループには、メンター経験の長い方も多く、人はこんな時、そんな風に答えるのか、そんなことを聞くのかなど、相談活動にあたって参考になる例をたくさん吸収することができました。

日本財団の助成金での応用研修はここで一区切り、来年度以降の研修は未定とのこと。「最後かもしれない・・・」貴重な終了証を鞆にしまい、名古屋を後にしました。

愛知県自閉症協会の皆様、お世話になりました。



メンター応援団

『拝啓 鳥取県ペアレントメンターの皆さま』

ペアレントメンターおかやま事務局
(おかやま発達障害者支援センター)

森 千夏

鳥取県のメンターの皆様、関係者の皆様はじめまして。岡山県では、今年度より登録メンター32名による派遣活動が始まりました。活動内容は主に茶話会のようなグループ相談を中心に、サポートブックや支援ファイルの作成、ペアレントトレーニングのお手伝いもしています。岡山県には、17市町村に発達障害者支援コーディネーターが配置されており、地域の支援者としてメンター活動を支えています。昨年12月に開催した全体会には県の行政（県民局、教育、保健）の方の参加があり、市町の自立支援協議会や保健師さん共々、メンター活動に理解を示してくださいました。

岡山県はメンター事業を立ち上げる時期から鳥取県の活動や仕組みを参考にさせて頂いており、大変感謝しております。全体会と併せて実施したフォローアップ研修会では、小松さんにお越し頂き、鳥取県のメンター活動や仕組みについてご紹介頂きました。キャラバン隊の活動では行政の方が寸劇に協力されたこととお聞きし、活動内容やメンターと行政の協働体制の在り方等を参考にしたいと思えました。また、岡山県としても「メンターさんの得意な活動」や、「圏域毎の活動」についても考えていきたいと思えます。隣県同士今後も交流しながら、お互いにメンター活動を盛りたてていきましょう！



新規登録メンター情報

平成25年10月～12月に鳥取大学医学系研究科でペアレントメンター養成研修が行われ、新たに10人のメンターさんが誕生しました。その10人全てが「ペアレントメンター鳥取」に登録してくださいました。これで、東部25人・中部19人・西部21人、合計65人のメンターが登録されていることになりました。ただ、65人全てが常時活動できるわけではありません。鳥取の女性は働き者、全国的にみても働く女性の割合が高く、メンター登録をされている方が多くが仕事をされています。何か恩返しをしたい等の個々の使命感を持ち、活動にやりがいを感じているメンターさんも多いのですが、仕事や家庭・子育てと忙しい中、極端に大きな負担となることは避けたいところです。

今後も新しいメンターさんの活動に期待しつつ、ひとつの依頼に複数のメンターで関わるなど、個人に大きな負担がかからないようなマッチングを心掛けていきたいと考えています。



《お知らせ》

書籍の紹介



親と地域でつながる支援

『ペアレント・メンター活動ハンドブック』

(日本ペアレント・メンター研究会 著)

井上雅彦・吉川徹・加藤香編著

学苑社 刊

ペアレント・メンターは、厚生労働省の発達障害支援の重点施策として位置づけられて以来、多くの自治体で養成研修が実施されてきています。しかしメンターが活動を行なっていくためには、コーディネーターや運営委員会、バックアップ機関の存在が欠かせません。本書では既刊（『ペアレント・メンター入門講座 発達障害の子どもをもつ親が行なう親支援』）からその内容を発展させ、メンター養成後の組織の運営方法、メンター活動での実際の事例など、より具体的・応用的な内容を解説し、メンター活動の一助となることを目指しています。

《4月からの動き》

NPO法人鳥取県自閉症協会 総会記念講演会

日 時：6月14日（土）13：00～14：30

会 場：倉吉未来中心

講 師：井上雅彦鳥取大学医学系研究科 教授

講演内容：未定

【編集後記】

平成25年度にも何とかNo.6～No.8のメンター通信が発行できそうで安堵しているところです。ご協力いただいたすべての方にただただ感謝です。

植物を育てることを楽しんでいる近年、「アボガド」を食べた後に土に埋めていたら芽が出たことから、5本くらい育てています。周りの皆さんから「実がなるのか」と必ずきかれますが、鳥取では露地栽培は困難でこの冬は小さなビニールハウスで過ごしましたから、実らせるにはどうすればいいでしょう？

難しいことはできないと思いますが、名古屋の研修で教わった、共依存に陥らないようにするためにも、植物を育てることで、適度な休息を取りたいと思います。（小松）



ペアレントメンター事務局連絡先

住 所：鳥取市瓦町 601 番地

(NPO 法人鳥取県自閉症協会内)

電 話：0857-30-0670（平日 10：00～14：00）

F A X：0857-30 - 2785（24 時間受付）

E - M a i l：p-ment@kind.ocn.ne.jp

U R L：<http://p-ment.main.jp/>